

01 62 年目の新たな旅立ち

グループ体制の見直しと社名変更の実施

1961 年に活版印刷の会社として創立以来 62 年、事業内容の変更にあわせて社名変更いたしました。新生ココラボの新たな旅立ちに、これからも変わらぬご支援をお願いします。



社名の由来：Community Collaboration。コミュニティと協働して持続可能な社会を創りたいとの思いを込めて。

株式会社ココラボ

- ・社会課題解決型メディア事業
- ・サステナブル商品開発・販売事業
- ・CSR・SDGs コンサルティング事業



〈子会社〉 協進メディア・ソリューションズ株式会社

- ・印刷事業
- ・クロスメディア事業

創業の精神〈他者への貢献〉

株式会社ココラボの前身である株式会社協進印刷は、1961 年（昭和 36 年）、横浜市神奈川区大口の地において、創業者江森勇によって活版印刷を主な業務とする「有限会社協進印刷所」として創立されました。不運にも初代社長の江森勇は創業間もない 1964 年に他界しましたが、日本の高度成長に助けられ順調に成長していきました。その後印刷業界では華やかな広告用の印刷物が急成長しましたが、活版印刷出身であった当社はカラー化には遅れをとりました。2000 年前後からは業務のコンピュータ化、ドキュメントのデジタル化などが進み、印刷需要は減退、代わってデザインや発送・梱包などの業務を担うとともに、メディア事業やコンサルティング事業など新たな挑戦を始めています。

創業から一貫して大切にしてきたのは、お客様から「ありがとう」と言っていただける仕事をすることを誇りとし、ステークホルダーの幸せを第一に考え、他者に貢献する姿勢です。

〈印刷〉を通じて培ったこと

印刷物は店頭で販売している商品と違い、お客様が発注する時点で製品はまだ影も形もありません。それだけにより製品を作るためにはお客様との強い信頼関係が欠かせません。私たちが印刷事業を通じて得た貴重な教訓は、お客様の期待に応えるだけでなく、お客様の頭の片隅に引っかかっている「課題」を一つひとつ解決しながら仕事を進めていくことの価値です。

私たちは長年の経験から、課題を解決するためには繰り返しの「対話」が有効であることを学びました。そしてそのことは社会全体の課題解決にも有効であると確信し、対話による価値創出を様々な形で進めています。

持続可能であるための新たな事業領域へ

コロナ禍による非接触社会の進展により、2019 年以降印刷需要は大きく落ち込むこととなりました。ミーティングはオンラインで開催され、書類はデジタル化、チラシはスマホで見るものになりました。私たちの仕事内容も大きく変わり、新規受注の大半は「ソーシャルえほん」や「紙製クリアファイル」、「SDGs コンサルティング」などが占めるようになり、名が体を表せなくなってきたため、この度の社名変更の決断に至りました。

しかし、印刷物がすべて無くなってしまうわけではありません。五感に訴える紙媒体の力を必要とするもの、思い出とセットにしているもの、紙が醸し出す権威を必要とするものなど、多くの人に必要とされている印刷物もまだまだたくさんあります。そのような印刷物についてはこれまで同様、プロとしての並々ならぬこだわりを持って作り続けていきます。子会社の株式会社ホットウィルを社名変更した「協進メディア・ソリューションズ株式会社」が、クリエイティブ・プリンティング、WEB、動画など、様々なメディア制作の業務を引継ぎます。

いつまでも必要とされる会社として

敗戦以来「サステナブル＝持続可能性」ということを、皆がこれほど考えたことはなかったのではないのでしょうか。この地球が、この社会が、そして私たちの会社が持続可能であるために。社会の持続可能性が私たちの持続可能性になる、そんな事業体を目指して、62 年目の新たな旅立ちをいたします。共に持続可能であるために、皆さまからのご支援・ご協力と、私たちとのコラボレーションを心よりお願い申し上げます。

ありがとうナイト

COCOLLABO CSR Presentation 2022

ココラボ 価値創造プロセス

投入する資本



人的資本

進取の精神と不断的努力。当事者意識をもって他者に貢献する姿勢。



知的資本

印刷で培った情報加工力。持続可能性についての最新の知見。



財務資本

高収益型事業モデルへの転換。金融機関との連携。



製造資本

デジタル印刷設備と、自動化等に関するITノウハウ。



社会関係資本

地元行政・NPO・全印工連のネットワーク。



自然資本

持続可能な原材料。再生資源の活用。

対話で創る持続可能なやさしい社会

持続可能性創造事業

- 社会課題解決型メディア事業
- サステナブル商品開発・販売事業
- CSR・SDGs コンサルティング事業

メディア・ソリューション事業

- 印刷事業（クリエイティブ・プリンティング）
- クロスメディア事業

〈重要課題（マテリアリティ）〉

1. 温室効果ガス排出削減
2. 社会課題解決型メディアの発行
3. サステナブル商品の開発
4. CSR・SDGs コンサルティングによる持続可能性への貢献
5. 安心して働ける働きがいのある職場づくり
6. キャリア教育を通じた次世代育成



アウトプット



社会課題解決に主体的に取り組み、事業創造できる人材。



規模やステージに適した有効なソリューションの提供。



持続可能な経営を可能にする強靱な財務体質。自己資本比率向上。



RPA 等自動化技術を活用した生産性の向上。DX-PLAT の活用。



官民の枠を超えた課題解決ネットワーク。協力会社との価値創造。



マテリアルフットプリントの削減。

提供価値（アウトカム）

● cocollabo ソーシャルえほんを通じた社会課題の啓発

様々な社会課題をテーマにしたソーシャルえほんシリーズを行政、団体、企業など多様な主体に活用していただくことで、課題の存在を明らかにし、皆が気づき、助け合える社会の創出を目指します。



● サステナブル商品を通じた自然環境保護

紙製クリアファイルなどの脱プラスチック製品や、リユース封筒・メモ帳などのリユース製品などによって、廃棄物の削減や海洋等自然環境の保全に貢献します。

● CSR・SDGs の取り組み支援、組織立ち上げ支援

セミナー開催や個別コンサルティングによって、CSR・SDGs の取り組みや社内組織の立ち上げを支援し、経営への持続可能性の組み込みを円滑かつ効果的に実現します。

● オリジナリティあふれる“伝わる”報告書の作成

印刷事業を通じて培った高度なグラフィックデザイン技術により、ともすれば画一的になりがちな統合報告書、サステナビリティレポートにストーリー性を加え、その会社ならではの“伝わる”報告書を作成します。

● CO₂ 削減の前倒し達成とサプライチェーンへの啓発

Scope1・2 について 2027 年までに排出量ゼロを目指しています。またサプライヤー各社に対する働きかけを通じて、サプライチェーン全体での排出削減を目指します。

● 安心して働ける職場づくりと働きがいの創出

従業員が安心して働けるための各種支援制度の拡充と、働きがいを感じられる評価制度・教育制度の充実を通じて、セーフティネットとしての企業の役割を強化していきます。

● 次世代育成と子どもの安全確保

地域の子どもたちが安心して育つ環境づくりと、多様な経験を通じた豊かな人格形成に貢献します。

ソーシャルインパクト

- ・行政広報の費用対効果向上
- ・孤独死の減少
- ・子どもへの虐待件数の減少
- ・パリ協定の目標達成 など

課題認識

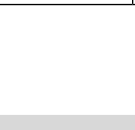
- ・メディアのデジタル化進展
- ・リモート勤務の定着化
- ・印刷市場の縮小に伴う原材料費の高騰
- ・持続可能性の文脈による紙の入手困難加速
- ・担い手の不足と自動化の進展

- ・市民ニーズの複雑化と行政による支援の限界
- ・広報人材の重要性と人材不足
- ・SDGs を端緒とする企業の取り組みの多様化
- ・排出権取引を契機とする CO₂ 削減の本格化
- ・社会課題解決事業化の必然性

- ・メタバースの普及による仮想世界の拡大
- ・「モノ」消費の減退
- ・所有からシェアへ
- ・孤立を防ぐ新しいコミュニティの必要性
- ・進学、就職の多様化

事業内容の変更に伴い、価値創造プロセスの表現方法を見直しました。国際統合報告フレームワークに定義されている6つの資本を意識し、今後の中期計画の中でこれら6つの資本を無駄なく活用する事業編成・事業内容にブラッシュアップしていきたいと考えています。またこれまで長期ビジョンとしていた項目を重要課題（マテリアリティ）として設定し、それぞれSDGsゴールに関連づけました。アウトカム、ソーシャルインパクトについては今後定量化できるように検討を続けていきます。

重要課題 SDGs 対応表

No.	重要課題（マテリアリティ）	SDGs ゴール	SDGs ターゲット	説明
1	温室効果ガス排出削減（2027年までに Scope1・2 排出量ゼロ）	 	7.2：2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。 13.2：気候変動対策を国別の政策、戦略及び計画に盛り込む。	7.2：再生可能エネルギー比率 100%（達成済） 13.2：2027年までに Scope1・2 排出量ゼロ
2	社会課題解決型メディアの発行（年間6タイトル）		17.14：持続可能な開発のための政策の一貫性を強化する。	17.14：国や地方自治体の政策を強化するための社会課題解決型メディアの企画・発行
3	サステナブル商品の開発	 	12.5：2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。 14.1：2025年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する。	12.5：リユース、リサイクル可能素材の活用 14.1：プラスチック代替品の開発
4	CSR・SDGs コンサルティングによる持続可能性への貢献		17.14：持続可能な開発のための政策の一貫性を強化する。	17.14：国や地方自治体の政策を強化するための CSR・SDGs コンサルティングの実施
5	安心して働ける働きがいのある職場づくり	 	4.4：2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。 8.2：高付加価値セクターや労働集約型セクターに重点を置くことなどにより、多様化、技術向上及びイノベーションを通じた高いレベルの経済生産性を達成する。	4.4：従業員教育の充実と従業員満足度の向上 8.2：一人あたり付加価値額の成長率
6	キャリア教育を通じた次世代育成		4.4：2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。	4.4：インターン等受入人数の増加（従業員一人あたり）

02 環境面 地球環境に負担をかけずに 成長を続けるために

CO₂ "ゼロ" へ

2027 年までに CO₂ 排出量 "ゼロ" を目指しています。

※ Scope1、Scope2 排出量

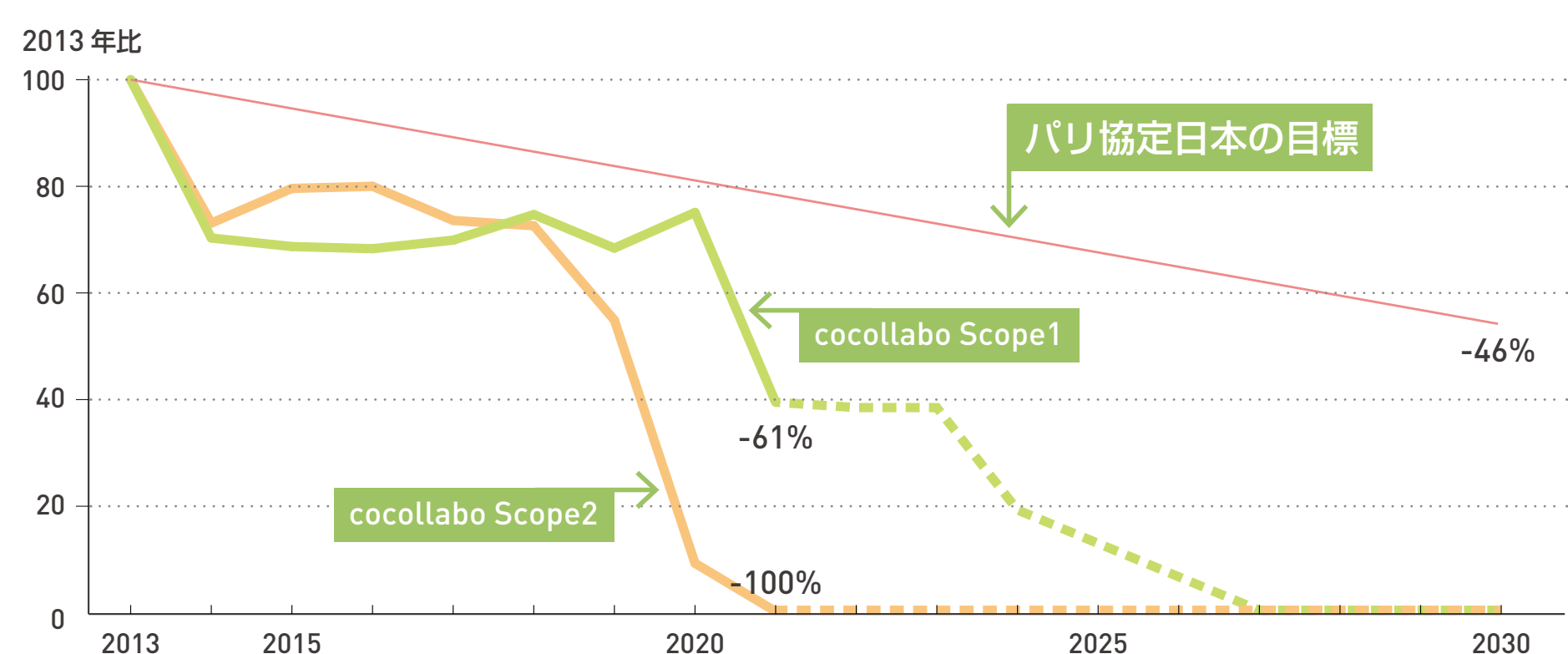
2027 年までに Scope1・Scope2 において排出量 "ゼロ" を目標に取り組んでいます。2021 年度に電力の再エネ利用による Scope2 排出量 "ゼロ" を達成し、Scope1 についても排出権取引を利用することなく達成できる見通しです。

環境マネジメント報告

一般社団法人日本印刷産業連合会の「グリーンプリンティング（GP）認定基準」に基づき、2007 年から環境マネジメントシステムを構築・運用し、温室効果ガスや廃棄物の削減、環境製品の開発・提案などを行っています。

2021 年度の CO₂ および廃棄物の排出量は下表の通りです。今年度より GHG プロトコルの Scope 別に排出量の集計を始めました。Scope1・2 については排出量ゼロに一定の目処がついたことから、今後は Scope3 排出量の削減に取り組んでいきます。まだサプライチェーンのすべてにおいてデータが取得できているわけではないので不完全な集計となっていますが、今後測定可能な範囲を広げていきたいと考えています。

Scope1・Scope2 排出量の推移と計画



2021 年度 CO₂ および産業廃棄物排出量・リサイクル量 (2021.3.1 ~ 2022.2.28)

排出

項目	排出量	前年比
C O ₂	Scope1	1.7t
	Scope2	0t
	Scope3	49.4t
廃 油	0.22t	81%
廃 アルカリ	0.01t	100%
廃 プラ	0.04t	57%
一 般 廃 棄 物	720 ㌔	105%

リサイクル

項目	排出量	前年比
紙	6.90t	111%
アルミ	0.54t	90%
金属	0.09t	90%

03 社会面 いつも地域に寄り添い ともに行動する企業であるために 236,355 冊

「ソーシャルえほん」で社会に対話を。

地域で、学校で、家庭で、会社で。社会課題を知って、みんなで話し合うきっかけを提供する「cocollabo ソーシャルえほん」シリーズは、2021 年度新たに 2 タイトルを追加し、全 6 タイトル累計発行部数は 236,355 冊となりました。社会にはあまり知られていない難しい課題が、まだまだたくさんあります。cocollabo はこれからも社会を見つめ、対話の機会創出を通じて、市民による自発的な社会課題解決を促していきます。

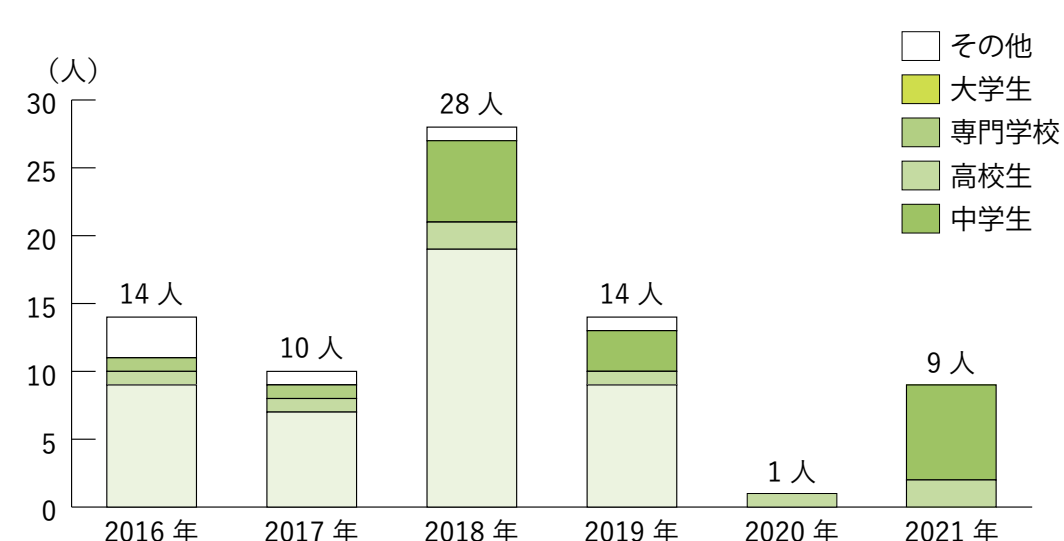
社会活動マネジメント報告

私たちは「CSR は経営そのもの」の考え方のもと、社会に対して働きかける活動にもマネジメントシステムを適用し、可能な限り目標と実績を管理し、ステークホルダーに対する効果と自社の経営への効果を測定、取り組みに対する評価を通じて改善するという、PDCA の管理サイクルを採用しています。

従来から実施してきた子どものキャリア教育支援に加えて、高齢者支援の活動にも注力しました。

[子どものキャリア教育支援]

・職業体験・インターンシップ受入人数の推移



・はまっ子未来カンパニープロジェクト 2021

横浜市立大口台小学校（地域のパンフレット作成）
横浜市立大岡小学校（商店街を盛り上げようプロジェクト）
横浜市立羽沢小学校
（羽沢のキャベツを有名にして、みんな HAPPY プロジェクト）

・講義・職業講話・交流イベント等

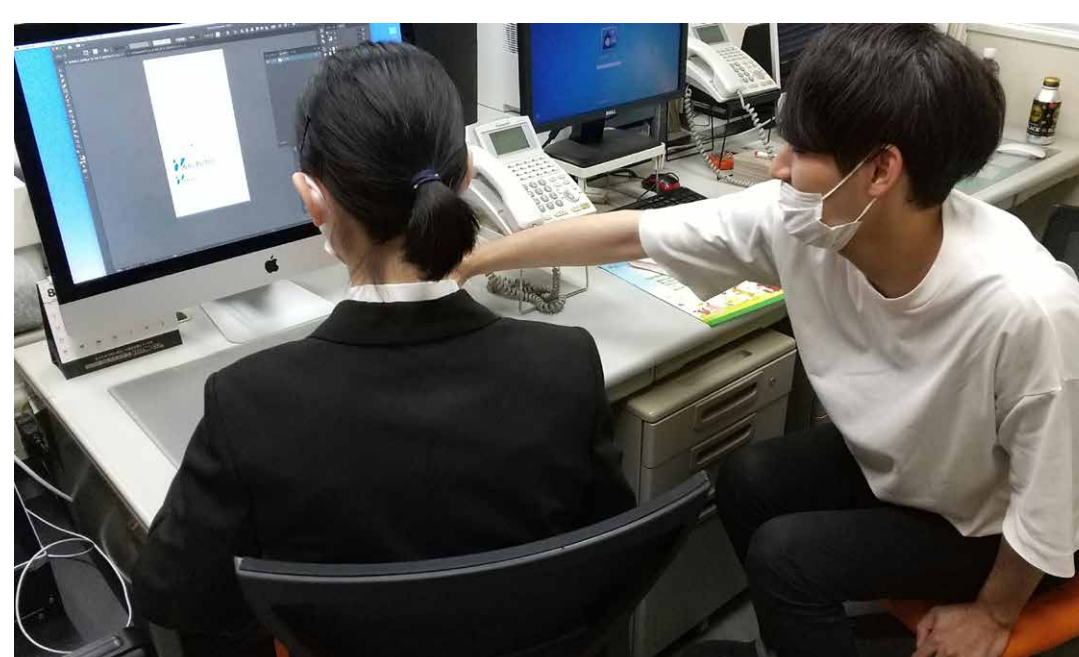
横浜市立大学大学院 CSR 実践論講義（5 月）
横浜市立横浜総合高等学校 キャリアデザイン授業（7 月）

[ありがとうの日実施状況]

実施年月	テーマ	対象者	達成度
21.04	ゴミ収集 BOX 再設置	地域住民	100%
21.06	情報難民から高齢者を救うスマホ教室	地域住民	5%
21.08	ソーシャルディスタンスと美観を保とう！看板	地域住民	100%
21.10	脱プラしよう！クリアファイルと紙ファイル交換キャンペーン	顧客	0%
21.12	認知症を知ろう ～認知症講座と笑顔の教室～	地域住民	100%

[寄付・協賛]

- 横浜市神奈川区役所
STOP 自殺冊子〈寄贈〉
- 認定 NPO 法人エンパワメントかながわ
母校に CAP を贈ろうプロジェクト〈寄付〉
- 六角橋オレンジプロジェクト
認知症ポスター〈協力〉



04 ガバナンス面 目標に向かって 実現可能性を高めるために

満足度 8.8

総合顧客満足度が 10 点満点中 8.8 となりました。

不定期で実施してきた顧客満足度を 2020 年度より定期実施とし、2021 年度からは環境、情報セキュリティなど 8 つの CSR 項目に関する関心度を調査項目に加えました。総合的満足度は 10 点満点中 8.8 となり高評価をいただくことができました。CSR 項目への関心度は「情報セキュリティ」が最も高く ” とても重要 ” の回答が 58% に上りました。満足度と CSR 項目の相関については「地域貢献」の項目について顕著な相関が見られ、当社の地域貢献の取り組みが満足度に大きな影響を与えていることが明らかになりました。

ガバナンスマネジメント報告

〔コンプライアンス〕

法令違反、行政指導等：0 件

〔お客様からのご意見・苦情等〕

仕様・品質に関すること：8 件（133%）
印刷物の内容に関すること：5 件（63%）
金額に関すること：0 件（---）
情報セキュリティに関すること：1 件（50%）

〔情報セキュリティ不適合事案〕（前年比）

不適合：2 件（± 0 件）
重大ヒヤリハット：0 件（± 0 件）
ヒヤリハット：0 件（± 0 件）
外部要因不適合：0 件

〔社員教育〕

セミナー受講：73 時間
情報セキュリティ教育：理解度調査平均 85 点（100%）
読書：38 冊（目標 120 冊）

〔ワークライフバランス〕 2021 年度

	正社員			フレキシブル社員		
	目標	実績	昨年比	目標	実績	昨年比
時間外勤務 （月平均）	10h	5.1h	-13.2h	0h	0.7h	- 0.7h
有給休暇取得	60.0%	30.0%	78.9%	78.0%	78.0%	165.9%

※ 2021 年度は新型コロナ対応による休業が多かったため、正社員については有給休暇の目標値を大幅に下回りました。

〔従業員満足度調査〕

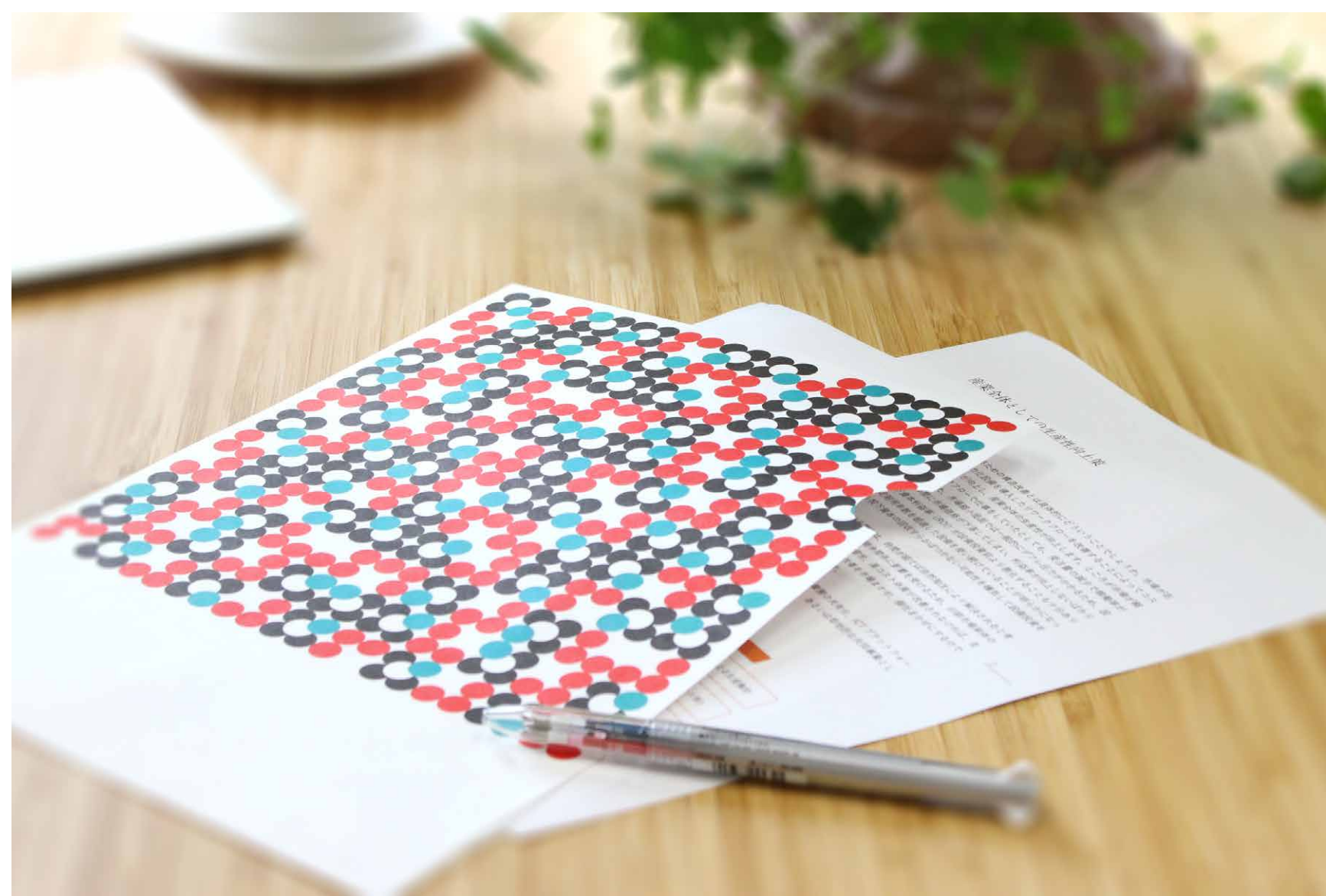
中災防（中央労働災害防止協会）の「職場快適度調査（ソフト面）」を利用して従業員満足度調査を実施しています。

2021 年度は、総平均が昨年の 3.6 から 3.7 へと若干改善しました。引き続き働きやすい職場の実現に向けて努力していきます。

〔制度理解度アンケート〕

働き方に関する諸制度の周知率は 95% となり、制度自体の周知は良好ですが、制度の内容までは十分に理解されていないことも明らかになりました。今後、制度の内容についての説明会等でさらなる周知をはかります。

05 取り組み報告 サステナブル製品で SDGs に貢献



cocollabo 主要事業のひとつ「サステナブル製品」。紙製クリアファイル、リユース封筒など、持続可能性に配慮した製品で SDGs に貢献します。

“海にやさしいファイル”というキャッチコピーを掲げ、当社オリジナル紙製クリアファイルは2020年にデビューしました。全面印刷も可能な完全紙製のクリアファイル。脱プラファイルの先駆けとなった本製品は、ノベルティや提案資料入れ等に使われるためワンウェイになることが多く、排出者責任を果たせない可能性が高いことを踏まえて開発されました。また紙製にすることでCO₂も約72%削減（素材ベースでの比較）されます。

2022年度には、素材の質感や透明度が異なる3種類の用紙を取り揃え、SDGsへの第一歩として多くの方にご活用いただけるよう取り組みを強化していきます。



篠原西小学校で SDGs 出前授業を実施

今年7月、横浜市立篠原西小学校4年生の児童を対象に、当社とサンワテクニカルパートナーズ(株)の連携で、SDGsの出前授業を実施しました。海洋ゴミの現状をクイズなども交えてわかりやすく解説し、家庭での実践につなげてもらえるよう、紙製クリアファイルとエコバッグを4年生全児童にプレゼントしました。

